

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200996		
法人名	特定非営利活動法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホームさやか		
所在地	神戸市西区和井取3番12号		
自己評価作成日	平成29年3月11日	評価結果市町村受理日	平成29年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.iawa-jp.com/">http://www.iawa-jp.com/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年5月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

時間を設定しておらず、各ご利用者が一人一人自分の好きなタイミングで起床や臥床、入浴、食事等好きな事をして頂けている。また、食べ物や飲み物なども皆が同じものではなくそれぞれが好みの物を選び、主体性をもって過ごされている。さらに、ご利用者が困っている事はないか・できることはないかを職員が能動的に日々の生活の中で見極め、各々にあった必要な対策やアイデアを取り入れている。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ニューファミリーの子どもたちの明るい声が聞こえる新しい家並みの中に、事業所の建物は溶け込んでいる。毎日の生活に画一的な時間割りを設けずに、利用者個々のペースに合わせたサービスを提供し、その中で利用者が自立した生活を送れる様にと支援しており、独りで散歩や買い物に出掛ける利用者もある。それだけに、職員には洗練されたスキルとリスクマネジメントが要求される。毎日9時から18時までの間、30分間隔で利用者の居場所とその時の様子を記録に残している。毎月開催する「ホスピタリティ会議」では、利用者のエピソードを事例として挙げ、その際の職員のアプローチと利用者の反応を、法人全体で情報共有しながら学ぶことによって、職員は研鑽を積んでいる。昨年度初めて看取りを経験したことが、スキルの幅を広げることにつながった。理想的な大家族像の実現に、今後とも期待したい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をふまえ、ご利用者が主体となるようタイムスケジュールを作らず、思いを尊重し個別の対応を行っている。対応等困った時は申送りや会議で検討し合っている。	常に理念を念頭に置きながらケアをし、理念からのズレが生じない様にと、日々職員間で確認し合っている。利用者への対応の仕方は、毎月開催する「ホスピタリティ会議」の事例の中から学んでいる。利用者の希望は「一期一会」であると認識し、出来るだけ実現する様に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月1回地域の清掃を行う事やイベントで近隣の方と交流を深めたり、散歩等で外出した際に顔見知りになる事も多い。夏祭りやクリスマスのイルミネーションも地域の方に浸透している。	「トライやる・ウィーク」で訪問した約10名の中学生の中に、自分の孫がいるというサプライズもあり、利用者も喜んだ。事業所主催の夏祭りを近隣の保育園児の帰宅時間に合わせて開催しており、近隣住民と子どもたちで賑わった。法人グループの農園で栽培したトウモロコシを、保育園の職員を通じて園児の各家庭へ贈るなど、関係性を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回実施しているが地域型への理解や支援へは現状活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しあんしんすこやかセンター・民生委員・ご家族・ご利用者・職員の参加でご利用者のご様子、事業所の様子など報告し意見交換を行っている。課題点を挙げるようにし、改善に繋がる意見を伺っている。	会議では、「さやか便り」などにに基づき事業所の状況報告をしている。イベントの結果と今後の予定、ヒヤリハットの内容と今後の防止策などを報告し、Q&Aの中でアドバイスを得ている。日常的な課題が主であり、事業所の運営に反映させるような事項は少ない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護ご利用者に対してケースワーカーと連絡を取り合い、連携が取れるよう取り組んでいる。また、神戸市のホームページであるケアネットを随時確認し、不明点やアドバイスを求める事もある。	生活保護の受給者があり、区の担当者が来訪する。管理者が区のボランティア課を訪問する中で、近隣の大学のボランティア活動支援室とコンタクトする機会が生まれ、事業所の菜園での植え付けから、収穫物を使った献立の作成までというボランティアにつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時と定期的に研修を行い、玄関も施錠せず日常の関わりの中で職員と連携し拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待防止と併せて毎年研修を続けることで、職員に周知徹底している。玄関の開錠や独りでの外出に関しては、家族にリスクを説明して了承を得ている。拘束に該当する器具を使用する際の手順や、家族へ説明する際の書式は整えている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時又定期的に研修を行い職員に意識の徹底を努めている。	理念の一つである「自分がされたいやなことは、決して他人にはしない」を念頭に置き、利用者を生人の先輩と考え、特に言葉遣いには注意している。職員のストレスを軽減させるために、管理者は日々の対話を心掛け、食事会や懇親会を開催している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に研修はおこなっていないが必要に応じて家族様等活用できるように説明しているが全ての職員が理解しているとは思わない	現在、成年後見制度を利用している利用者がある。必要に応じて家族に制度の説明をしているが、冊子などの準備は無い。研修も行っていないので、職員の知識は乏しいと思われる。	制度の概要を説明した冊子を準備するとともに、研修開催の協力を地域包括などに依頼されたらどうだろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に入居のご案内をし希望があれば見学・体験も実施している。契約時時間を掛け説明し理解と納得を得ている。	利用者の自宅や入院中の病院を訪問して、事前の説明を行っている。利用者が見学をしたり、リビングで雰囲気味わうなどの体験をすることもある。説明時に質問が多いのは、入居が続けられる重度化の許容範囲であるが、事業所の支援体制と指針を説明し、納得のうえでの契約となっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時に不満点などをお聞きし日々でもご利用者にも伺っている。又家族様に合わせてFAX・メール・電話などで日々の連絡や報告をさせて頂いている。	昨年のクリスマス会の後で、家族会を初めて開催した。職員の名前と顔が一致しないという意見があり、当日の勤務者の写真と名前を貼り出すことを始めた。家族会は事業所の新体制の説明が主目的であったが、今後、懇親も含めた内容で開催したいと、管理者は考えている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議や全体会議など発言や提案しやすい場を設け日々の関わりに反映させている。	利用者の個性とともに、職員の個性も大切にしており、産休・育休後の職場復帰と処遇に関しても、本人の希望に柔軟に応えている。全職員が交代でブログに記事をアップする中で、個々のスキルが高まり、それが事業所の運営につながっていると管理者は考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を事業所で設置し職員各自目標に対して達成できるよう意識を持つよう努めている。また、資格取得に関して、給与を増額する形で支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを	新人職員に対して新人研修を行っており、2ヶ月に1回勉強会も実施している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホーム連絡会への参加や、運営委推進会議への参加を通じて交流を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者が主体性をもってすごせる環境をつくりご利用者の思いを傾聴し受容の姿勢を持ってニーズに応えるようにしている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の状況や意見を把握し希望に沿ったサービスができるよう努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最も必要としている支援を確認し可能なサービスを提供できるよう努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者本位の考えでご利用者の敬意の念と教えて頂くという謙虚な気持ちで関わっている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との意見交換を通じご利用者を共に支えていけるような関係を築いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の思いをふまえ馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	甲子園球場での高校野球の応援、ごひいき歌手の音楽ショー見学、おしゃれの毛染め、晩酌など、職員が工夫をしながら、利用者の馴染みの継続を支援している。事業所で飼っている猫が招き猫になって、猫好きの利用者が入居してきた例もある。利用者の近況報告や往診結果を、電話やメールで家族に知らせることによって、密な関係性の継続を支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに気の合った方同士で会話したり、音楽鑑賞や、畑仕事、お散歩や体操を通して関わりが持てるような支援に努めている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節の挨拶等を郵送させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者やご家族に希望や意向を伺い困難な場合は表情や仕草で読み取りご利用者の意思に沿う事ができるよう努めている。	コミュニケーションが難しい利用者が数名ある。意向を確認したいことがらに、複数の選択肢がある場合は、一つづつやりながら、その時の表情から汲み取るようにしている。汲み取った意向や方向性は、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントを行い情報収集し把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録、申し送り表などを活用し現状を把握できるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人職員が担当を持ち2ヶ月に1回のケース会議で発言提案しご利用者の現状に即した介護計画を作成している。また本人やご家族ともサービス担当者会議を開き傾聴を行っている。	職員は担当フロアーの全利用者のケアをしている。担当者会議は、家族の来訪時や電話で話したタイミングで、随時開催している。ケース会議の中でモニタリングを隔月に行い、新たに把握した課題やニーズを踏まえて、半年毎の計画更新につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や課題の記録に基づき2ヶ月に一度のケース会議にて情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス概念に捉われない方法を必要に応じて取り入れている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育所や中学校との交流行事を活用したり、毎週訪問に来られるパン屋や花屋、マッサージなどの地域資源との協働を図っているが、さらなる向上を目指したい。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者および家族様の希望に応じかかりつけ医の受診往診を受けられるよう支援している。	協力医の定期的な往診、または看護師の訪問がある。必要に応じ歯科医の往診も受けられる。皮膚科や眼科などの専門医への受診は原則、家族の付き添いであるが、必要に応じて職員が同行することもある。利用者が安心できる、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調変化時は協力医往診と隔週で来訪時報告相談している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはお見舞いに職員が伺い病院関係者との情報交換にも努めている。特定の病院にしぼることで病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中、職員は毎日見舞い、医療関係者から情報を得よう努め、スムーズな退院後の支援に関するカンファレンスを重ねている。家族との情報交換も密にしている。最近、入院に至った利用者はいない。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所のできることを、できないことを説明している。終末期の対応はご利用者ご家族様の意向を確認し全職員で検討し共有し支援に取り組んでいる。	終末期においては、協力医、家族、事業所と三者カンファレンスを行なっている。事業所は、家族との話し合いを重ね、意向の確認をしながら、より良い支援が行えるよう努めている。協力医の指導の下に、職員の思いを統一し、チームで取り組む支援を行なっている。昨年度、開設以来初めての看取りを経験し、職員の自信に繋がった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時や定期的に救急救命講習を受講している。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	西区消防署と連携し定期的に避難訓練を実施しているが地域との協力体制を築くのは課題である。また、災害時のマニュアルを策定しているが、地震災害などの避難訓練の実施については、未実施である。	半年ごとに自衛による火災訓練を行なっている。自治会などは無いこともあって、地域との合同訓練は行なえていない。夜間想定に関するマニュアルはあるが実施できていない。消防署立ち合いの訓練も近年行えていない。	夜間を想定した訓練を早急に実施し消防署立ち合いを要請されたらどうだろうか
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し法人理念に基づき個別ケアの対応をしている。	入職時、理念の周知と、接遇に関する研修を行なっている。言葉遣いなど、職員間でその都度注意し合い、会議や勉強会で議題とし、気づきの場としている。トイレ誘導、着替えの際の衣服の選択、利用者の居室に入る際はスリッパを脱ぐなどの配慮、責任者は、詳細に指導し実践に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者本位の立場で自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定を設定せずご利用者の希望に沿った一日を過ごせるよう支援しているが全ての要望には対応出来ておらず、後回しになっていまいご利用者が出来てしまう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や髭剃りの支援、気候に合った服装の支援、買い物や理容サービスを提供している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューをご利用者の意見を伺い一緒に調理や味見、準備をしている。	日々の食事は、利用者から希望を聴き取り、職員と利用者が一緒に手作りし、一緒に食している。おやつなどを、職員と買いに出かける時もある。季節により、外での弁当やバーベキューを楽しむこともある。家族や近隣の人と参加する、夏祭りなどイベントでの料理も好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の希望を優先しつつ栄養バランスを考えた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた口腔ケアを行っている。また歯科衛生士による週に一度の口腔ケアを行っている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンや習慣に合った声掛けやトイレへの誘導を行い排泄の失敗を減らすように努めている。	車椅子の利用者も、日中はなるべくトイレでの排泄を行えるよう支援している。オムツの利用者はいないが、リハビリパンツ、パット使用の人のタイミングを把握し、夜間もトイレ誘導している。できる限りトイレでの排泄が維持出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動やマッサージ、食事を工夫する事で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間の決まりを作らずご利用者の希望に沿って入浴を楽しんで頂いている。	入浴は、利用者本位の希望に沿って、好きな日、好きな時間帯に入ってもらい、好みの入浴剤を選ぶ等、楽しめる入浴を支援している。数人を入れる浴室もあり、仲の良い利用者同士で入ることもできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者ごとの生活習慣に沿った休息や睡眠の場を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用に関して職員が理解し常に服薬に関する情報を職員間で共有している。不明点は薬剤師と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人一人の生活歴に合わせた楽しみ事や気分転換の場を職員が共有している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨の日でも傘をさしてお散歩されたりご利用者の希望に沿って時には家族様に協力をさせて頂き外出の支援を行っている。	日常的に玄関は開錠している。一人で散歩や買い物に出かける利用者も有る。職員と一緒に公園やコンビニに、おやつを買いに行くのを楽しみにしている利用者も有る。普段の会話の中で行きたい所、やりたいこと等を把握し、職員間で話し合っ、可能な限り実行出来るよう支援している。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じて必要時にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご利用者が自らが電話、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い季節や気候によって室温やレイアウトの変化を付け居心地の良い空間づくりの工夫を行っている。写真や日付の掲示はご利用者に好評である。しかし清掃が行きとどいていない箇所があり課題である。	広いリビングにテレビが2台ある。いくつかのテーブルやソファが色々な方向に配置されている。利用者が好きな所に座り、テレビを観たり、新聞を読んだり、会話をしながら、明るく居心地の良い空間で、穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ、椅子を意図的に配置しご利用者がその時の気分に合わせて使用して頂けるよう工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた物や衣類などを持ち込んで頂き使い慣れた物に囲まれた空間で過ごせるようにしている。	個々に使い慣れた家具を配置し、仏壇を置いている人もいる。音楽が好きな人は楽器を置き、好きな芸能人のポスターを貼り、家族の写真を飾り、好きな置物を飾り、それぞれが居心地の良い居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの構造になっており安全かつ自立した生活が送れる環境作りをしている。		